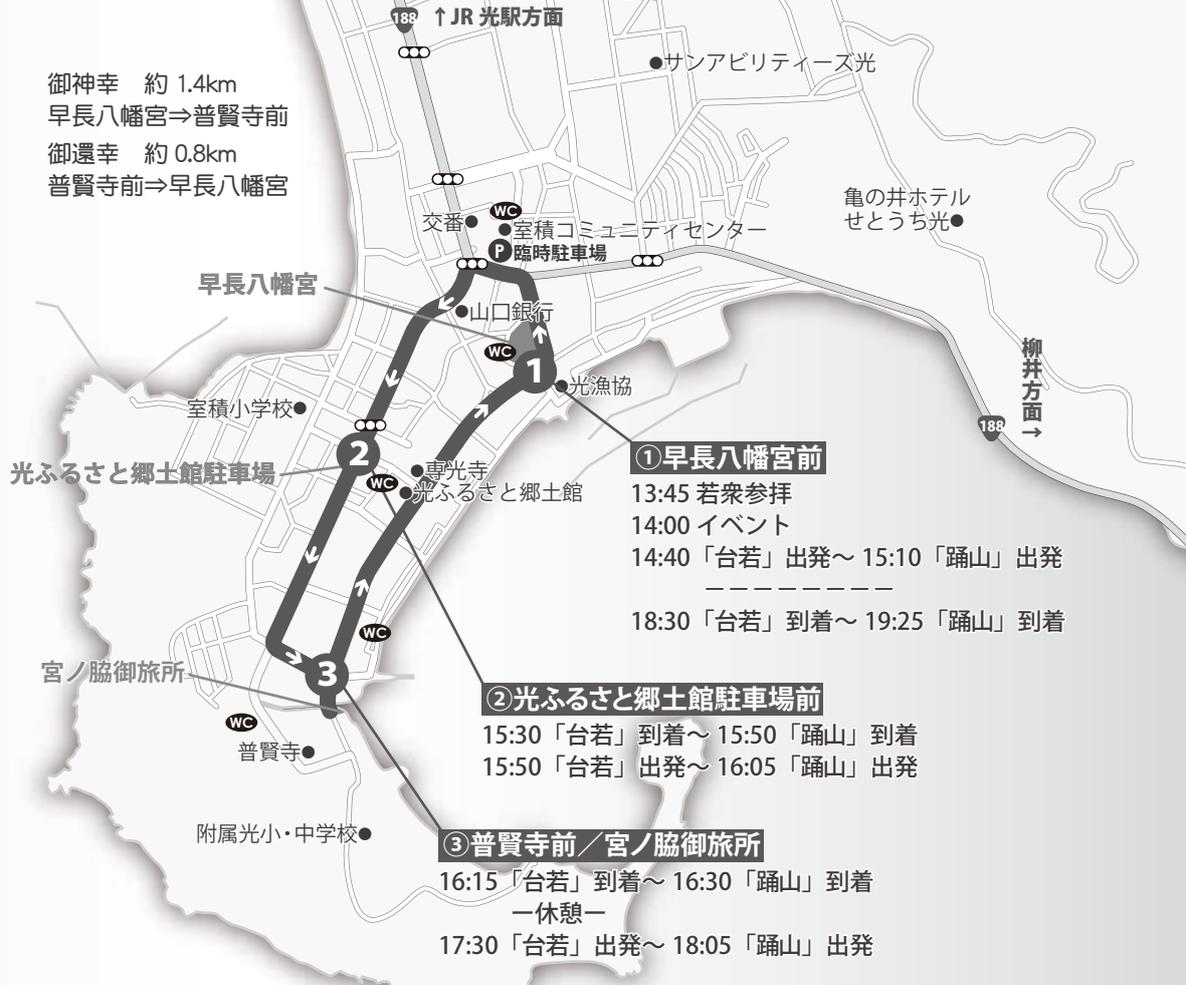


山車巡行経路



御神幸 約 1.4km
早長八幡宮→普賢寺前
御還幸 約 0.8km
普賢寺前→早長八幡宮

①早長八幡宮前
13:45 若衆参拝
14:00 イベント
14:40 「台若」出発～ 15:10 「踊山」出発

18:30 「台若」到着～ 19:25 「踊山」到着

②光ふるさと郷土館駐車場前
15:30 「台若」到着～ 15:50 「踊山」到着
15:50 「台若」出発～ 16:05 「踊山」出発

③普賢寺前 / 宮ノ脇御旅所
16:15 「台若」到着～ 16:30 「踊山」到着
—休憩—
17:30 「台若」出発～ 18:05 「踊山」出発

- 山車行列の順序
- ① 台若
- ② 鳥居
- ③ 石燈呂
- ④ 石燈呂
- ⑤ 高麗犬(阿形)
- ⑥ 高麗犬(吽形)
- ⑦ 随神(右大臣)
- ⑧ 随神(左大臣)
- ⑨ 御鏡山
- ⑩ 早長子どもみこし
- ⑪ 九頭
- ⑫ 神輿(鳳)
- ⑬ 神輿(凰) + 道あげ太鼓
- ⑭ 神職
- ⑮ 氏子総代
- ⑯ 曳舟
- ⑰ 踊山

- ・山車出発/到着時刻は状況により前後します。
- ・山車行列通過中は交通規制が行われますので現地での指示に従い安全運転をお願いします。

早長八幡宮秋まつりの山車巡行は、江戸前期、寛文元年(一六六一)に始まりました。「エンヤ!エンヤ!」の掛け声で、若衆が山車を曳き廻します。曳き立てや、行列が停滞した時には、木遣りを口説きながら、曳き綱を波のようには左右に大きく揺らして山車を練ります。

大幟を立て、黒松と酒樽を載せた山車を先頭に、鳥居、石灯ろうをかたどった山車、こま犬、随神、鏡を載せた山車、御供船の山車があり、行列全体が神社の形態を整えています。

このような山車行列は、現在では全国的にも珍しく、山車行列の原形をとどめる貴重なものだとされています。御旅所に到着すると、小物山車を並べて、神社が出現し、神事が行われます。

山車には地域の宝である子どもたちを乗せて走ります。

山車十輛と踊山一輛は、光市指定有形民俗文化財です。

この祭りで唄われる木遣り唄は江戸時代、室積に寄港した北前船の船乗りによって伝えられました。

室積木遣り唄

秋まつり当日 各自治会ごとにとろいの法被を着た若衆が、木遣りを唄いながら八幡宮へ集まります。

ソリヤヨイヨイ ヨーイ ヨーイヤナ
アレワエサー コレワエサー ヤーアートセー

祝いえーめでたの ヨーヨイヨイ
若松様よ アーヨイヨイ
枝が榮えて アーコリヤコリヤ
お庭が暗い

室積山車練り唄

山車の曳き立てや、行列が停滞し止まった時にこの唄を唄いながら曳き綱を左右に振り動かして身体をぶつけ合って山車を練ります。

「ドットコー ドートコリヤ
若いしゃー 頼みじゃー」 イエー

ホーランエー ーで始まりや ヤーハーエー
アーヤットコセー ヨーイヤナー
エー 始まる一の宮 ヨーホーエコーラー

ソリヤナンデモ ハリヤードツコイ
ヨーエトコ ヨーエトコセー

室積締め

ひとつ締めまーしょ × × ×
あーもひとつせー × × ×
いよーてしゃーのー × × × × ×